



在宅医療・介護サービスのガイドラインについて

日本老年医学会、日本在宅医学会、国立長寿医療研究センターが共同で地域包括ケアの要である在宅医療に関するエビデンスをまとめ 4 月 26 日「高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン 2019」（以下本ガイドライン）を発行した。本ガイドラインでは、自宅で療養している高齢者を対象としており、生命予後や疾患治癒率に限らず、在宅療養中の高齢者の QOL、満足度、介護負担などもアウトカムとして重視しまとめられている。

本ガイドラインの目的は、在宅医療・介護サービスの指針となり在宅医療における課題を明確にすると共に、この分野がさらに進展することと記されている。

作成については、「在宅医療在宅医療に関するエビデンス」を生かし、65 歳以上の自宅で療養している高齢者をターゲットに、そこで抽出された CQ（Clinical Question）をベースに日本老年医学会、日本在宅医学会、国立長寿医療研究センターからの総括委員会から主に作成委員会を募り、在宅医療における 6 つの重要課題を取り上げそこで分類された 29 項目の CQ に対しての指針が明確に示されている。



CQ（Clinical Question）の策定

CQ の策定には次の 12 項目の疾患と病態を設定している。

1. 認知症
2. うつ病
3. 脳血管障害
4. 神経疾患（認知症を除く）
5. 運動器疾患（骨粗鬆症、変形性関節症など）
6. 臓器不全（心不全、呼吸不全、腎不全、肝硬変）
7. 悪性腫瘍
8. 褥瘡
9. フレイル・低栄養
10. 嚥下障害
11. 排尿障害・排便障害
12. 急性疾患（肺炎、尿路感染症、脱水、外傷、発熱、熱中症）

在宅医療・介護サービスの 6 つの課題

1. 慢性期医療に対する在宅医療・介護サービス
2. 急性期医療に対する在宅医療・介護サービス
3. 摂食・排泄障害に対する在宅医療・介護サービス
4. 臓器不全・悪性腫瘍に対する在宅医療・介護サービス
5. エンド・オブ・ライフケアに対する在宅医療・介護サービス
6. その他重要な事項に対する在宅医療・介護サービス

碧 M 企画

医療介護コンサルタント



Aoi TOPIX

2019.7.10 Vol 4

期待できること

在宅医療・介護サービスを提供する現場では、多くの課題が存在しどのように対応すべきか悩むことが多々あると思われる。様々な療養環境にマッチした実施は現場の判断に委ねられるが、初期段階において本ガイドラインで示された指針を基に課題に対しアプローチすれば、全国の各地域で確かなエビデンスに基づいた一定の水準の在宅医療・介護サービスが展開できると期待している。

その他情報

本ガイドラインは「一般社団法人日本老年医学会」ホームページで無料公開されている。

<https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/publications/index.html>

在宅医療に関係している病院、診療所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の医療・介護従事者・メディカルソーシャルワーカー、事務職員などが読者に想定されており、購入する場合はアマゾンなどで注文できる。

単行本: 138 ページ

出版社: ライフ・サイエンス (2019/4/16)

発売日: 2019/4/16

価 格 : ¥1,080